

いとでんわ

「ありがとう」



校長

井口 英里

「ありがとう」と言われて、嫌な思いをする人はいないと思います。同じように、「ありがとうございます」と言う時、嫌な思いで言う人もいると思います。

本校の高等部佐敷分教室には「ありがとうボックス」という名の箱が存在します。その箱には、「ありがとうございます」の感謝を綴った用紙が入ります。「ありがとうございます」の行為の内容を説明し、その行為をした人に感謝の気持ちを伝えます。令和六年度は、二学期終了時点で一六件のありがとうございますメッセージが投函されました。

去る十一月三十日に、熊本県障害児・者親の会連合会主催で、「障がい児者・家族の作文発表会」が熊本県福祉総合センターで開催され、県内の特別支援学校の児童生徒の優れた作品に対して賞が贈られました。表彰式の後には、作文発表があり、家族へ、先生へ、お世話になつた人へ、それぞれの「ありがとうございます」が気持ちを込めて読まれました。聞いている会場の人も「ありがとうございます」の気持ちになりました。

さて、「ありがとう」は「有難う」と書き、

熊本県立
芦北支援学校



第183号
令和7年3月7日
発行

紙面内容

【学校長寄稿】
「新児童生徒会役員紹介」
「にこにこふれあい発表会」
「芦援アートトレイイン2024」
「長距離走大会」「芦高祭」
「進路だより」

「有るのが難しい」という状況のことです。つまり、「めったない」の意味で、「尊くもつたいなさまで」とから、そのことをもたらした人の厚意に感謝の気持ちを表すようになったという言葉の歴史があります。

そのような行為ができる人もすばらしいと思いますが、その行為に対し感謝の気持ちを素直に伝えられる人もすばらしいと思いません。

中国に「論語」という書があります。
「子曰、学而時習之。不亦說乎。有朋自遠方來。不亦樂乎。」

「子曰く、学びて時に之を習う。亦説(よろこ)こばしからずや。朋有り(ともあり)、遠方より来る。亦樂しからずや。」

「孔子はおっしゃいました。習つたことを、機会があるごとに復習し身に付けていくことは、なんと喜ばしいことでしょうか。友人が遠方からわざわざ私のために訪ねてきてくれたことは、なんと嬉しいことでしょうか。」

孔子の教育理念や価値観が端的に表現されており、遊びの喜びや友情の大切さが述べられています。

学校には、朋(友)がいて、そしてその朋(友)との交流の中で、「ありがとうございます」がたくさん聞こえてくる、そんな芦北支援学校は、「有難い」学校だと思うのです。

新児童生徒会役員紹介

本校舎

児童生徒会役員選挙が令和六年十一月に行われました。立候補者はそれぞれに、どのような学校にしたいか、どのように行事を行なうかなどについて、どのようにして頑張りたいかなどを演説しました。十二月には、高等部から一人、小学部から二人、訪問教育から一人の役員と、高等部から生徒会長が認証されました。



佐敷分教室

生徒会役員選挙が令和六年十一月二十九日に行われました。生から二人、一年生から二人の新生徒会役員が決定しました。認証式では、四人の生徒から、今後の分教室がもつと良くなるよう、決意をみんなに伝えることができました。

十二月の全校集会では、司会や会長挨拶など、役割を分担し、それぞれの生徒が責任を果たすことができました。今後も、委員会活動等で話し合いをしながら、分教室の活動を自分たちで考え、生徒会が目指す学校にしてほしいと思いました。よろしくお願ひします。(鳳凰)

(柏木)



にこにこふれあい発表会

(本校舎)



訪問教育

中·高等端



ノーベル

小学部

令和六年十月二十六日に「なかよくつながるきらりあしえん」のテーマの下、にこにこふれあい発表会を開催しました。来賓や保護者、卒業生、センターの皆様からたくさんの方の声援をいただき、児童生徒は、日頃の学習の成果やそれぞれの個性を充分に發揮することができました。そして、一人一人の笑顔や頑張りが、きらりと輝く発表会となりました。（高木）



〔本校舍〕

佐敷分教室

薩おれんじ鉄道の列車内を明るく彩りました。（林田・猪木）

駿駿馬へ行き、作品を届けました。本校舎からは、好きな素材や得意な動きを生かして描かれた作品が、佐敷分教室からは、芦北の豊かな自然の中を駆け抜ける列車の色彩豊かに描かれた作品ができました。三十九点の児童生徒の作品は、十一月十五日から十二月二十日の期間、車両広告スペースに展示されました。個性溢れるみんなの作品が、肥

肥薩おれんじ鉄道の車内に児童生徒が描いた絵画を展示する「あしえんアートトレイン」は、今回で十二回目を迎えました。

令和六年十一月八日から九日にかけて、芦高祭がありました。一日目の午前中は収穫祭に参加し芦北高校福祉科の生徒と一緒に作ったカレーライスを食べ、午後は同じく福祉科との交流の成果として、手話歌やダンスなどをステージで発表しました。二日目は作業製品の販売会を行い、心を込めて作り上げてきた製品をたくさんのお客様に買つていただきました。（境野）



芦高祭

令和六年十二月二十日に芦北高校・分教室長距離走大会がありました。大会の開会式では、分教室の保健体育委員長が堂々と選手宣誓を行いました。十月から体育の授業で日々練習を積んできた成果を、当日発揮することができ、最後まで全員諦めずに走りきることができました。大会後は男女一位から三位までに表彰状が、全員に記録証が渡されました。



芦媛インフォメーション

今回の「いとでんわ」では、後期に実施されました学校行事での児童生徒の活動の様子をご紹介しました。

※令和7年度は、4月8日（火）に
始業式・入学式を行います

「いとでんわ」は芦北支援学校の情報発信紙です。地域と共に成長する学校でありたいと考えています。関係者の皆様、地域の皆様のご意見をお待ちしています。

『ご意見・問い合わせ』

TEL 0966-82-4627
FAX 0966-82-4627

FAX 0966-82-4606
MAIL ashikita-s@pref.lumamoto.lg.jp

今年度から、高等部佐敷分教室では、年に一度の同窓会総会を夏季休業中の8月に実施することになりました。今年度は、令和六年八月二十四日に行い、三十名を超える参加がありました。

同窓会総会後には、親睦レクリエーションとしてボッチャ大会が開かれました。久しぶりに友人や先生方とボッチャを楽しみながら交流し、笑顔溢れる賑やかな会となりました。

卒業後も、母校に集い話ができる仲間がいることは、「ありがたい」とことです。

(谷崎)



進路だより